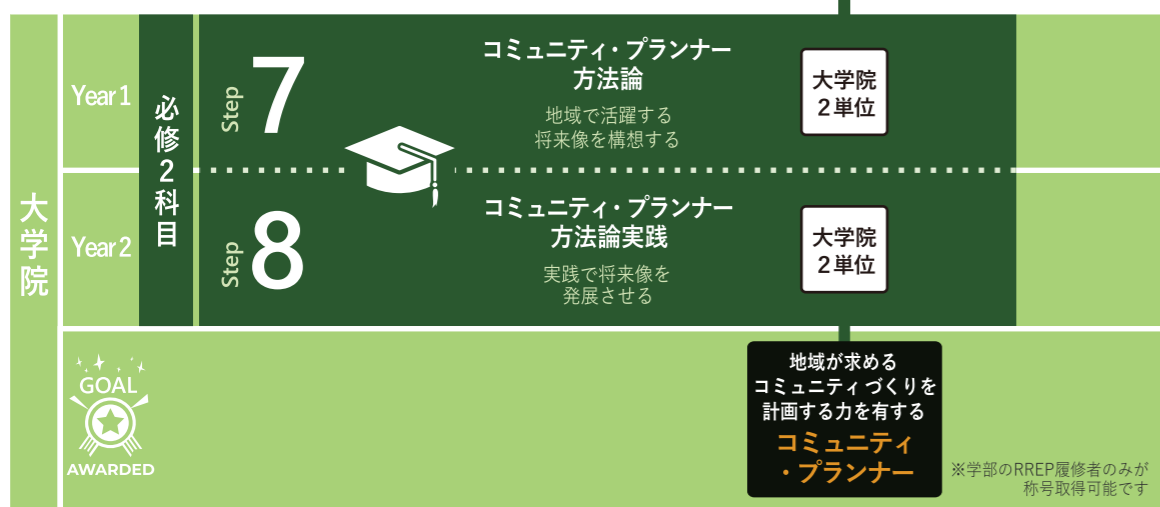
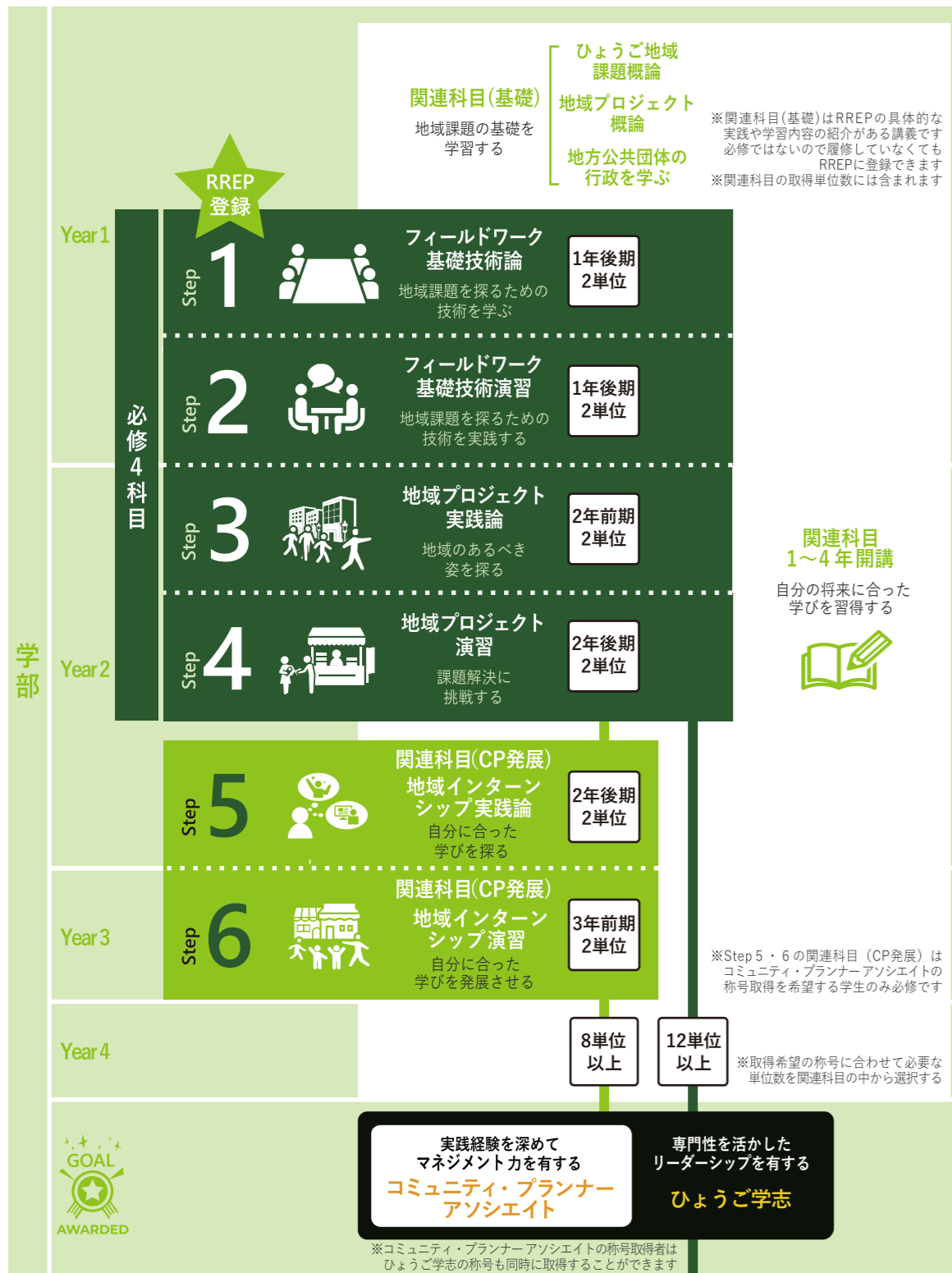


履修の流れ



本プログラムは、プログラム開講科目4科目8単位、関連科目12単位の合計20単位以上を取得することによって、卒業時には「ひょうご学志」または「コミュニティ・プランナーアソシエイト」の称号が授与されます。

なお、プログラム開講科目4科目8単位、関連科目(CP発展)2科目4単位、関連科目12単位を取得した学生は、両称号を取得することができます。

関連科目 1~4年開講

自分の将来に合った学びを習得する



ホームページでさらに詳しく <https://u-hyogo-rrep.net/>



最新の活動情報はSNSで @rrep_hyogo

プログラム運営担当
兵庫県立大学 地域創造機構
神戸商科キャンパス
研究棟I 206号室
Tel:078-794-7761
Mail:rrep@hq.u-hyogo.ac.jp

寄付 JA 共済連兵庫



地域の声を聞き
ともにチャレンジ!

兵庫県立大学 副専攻

地域創生人材教育プログラム

RREP

Regional Revitalization Education Program

学部・大学を越えて、 地域とともに、地域で学ぶ

兵庫県立大学では、所属学部以外に学びの機会を拡げるため「副専攻」という教育プログラムを設けています。その1つである地域創生人材教育プログラム（RREP）は兵庫の地域課題を体系的に学び、その課題解決に向けて地域と協働し、実践的に活躍する力を育成します。



プログラムの魅力



- ① 「地域の人」とともに地域で考え、地域課題に取り組む。
- ② 学部を越えた学生チームで、チームづくりを学ぶ。
- ③ 多様な学部・研究科の教員チームが支える。
- ④ 連携先である宮城大学との大学間交流事業を行う。

過去実施プロジェクト 連携先（五十音順）

西脇市

コミュニティビジネス・観光・食の魅力発信・子育て世代向けの健康啓発・地域連携拠点の創出・移住定住推進の6つのテーマで活動し、地域プロジェクトを実施しました。

連携先：いずみ会、西脇工業高校、西脇市、兵庫SPO支援センター、まちづくり協議会 他



姫路市

姫路市「城の西エリア」の関連団体と連携し、ゴミを出さない地域イベントの開催や、公園の剪定材をゴミにしない取り組みなど、地域におけるSDGs達成に寄与する活動づくりに挑戦しています。

連携先：城の西エリアマネジメント準備会、姫路市、NPO法人スローンサエティ 他



プロジェクト開講科目

フィールドワーク基礎技術論



地域への理解を深めるための事前調査手法やインタビューの方法等、模擬演習を通じてフィールドワークの基礎技術を学習します。

フィールドワーク基礎技術演習



インタビュー調査やアンケート調査、ワークショップ等を実践し、フィールドワークの基礎技術を現場で実践しながら習得します。

地域プロジェクト実践論



地域を創生する人材として基礎的な態度と知識、技能を習得します。他学部生とチームを組み、課題解決につながるプロジェクトを企画します。

地域プロジェクト演習



地域プロジェクト実践論で企画したプロジェクトを他学部生とのチームで実践しその成果と課題を踏まえ新たな提案を行います。

関連科目（基礎・CP発展）

履修を迷っている学生におすすめ！

関連科目（基礎）

- ・ひょうご地域課題概論
- ・地域プロジェクト概論
- ・地方公共団体の行政を学ぶ

1年前期に開講する関連科目で、地域課題について学びます。必修科目ではありませんが、プログラムへの理解を深めるため、いずれかの受講をおすすめしています。

コミュニティ・プランナー
アソシエイトの称号取得に必要

関連科目（CP発展）

- ・地域インターンシップ実践論
- ・地域インターンシップ演習

各学生の将来像に添った地域で活躍する可能性を見出すため、地域プロジェクト演習等の最終提案に挑戦するインターンシップを実施します。

履修者の声



環境人間学部 大島奈々子

実際に地域に入り活動することは、主専攻では経験できない貴重な時間でした。私たち学生は「外の人」なので、まずは地域の方々と関係性を築くところから始まりました。まち歩きやインタビューを通して、地域の方々とお話すると、どなたも優しくたくさん話してくださり、人の温かさを実感しました。初めは不安でしたが、地域の方々も前向きに考えてくださり、学生と地域の方々が「一緒に」イベントを作り上げ成功させることができ、とても嬉しかったです。

また、他学部と活動することで、多角的な視点から物事を見ることができるようになりました。課題解決力やコミュニケーション力等、今後必要な力をRREPを通して培うことができました。

地域で活動する中で、私が思っていた地域に対するイメージと異なることが多く、実際に自分の目で見て、自分の耳で聞くことの大切さに気付きました。地域の方々にインタビューをすると、地域に対しての思いや課題を学生の私たちだからこそ話してくれることもありました。地域の“生の声”を聴くことは簡単なようで難しかったですが、地域の方と協働して課題解決に取り組んだ経験は継続して課外活動を続ける原動力になっています。

このプログラムでは、GISを用いたデータ分析など多様な分析手法を用いるだけでなく、様々な学部の学生が集まって、それぞれの専門性を発揮し、地域課題に向き合いました。大学院では、持続できるコミュニティを地域の方と一緒に考え、実社会に役立ちたいと考えています。

国際商経学部 丸山智也

